

第 17 回 ちゅうでん教育振興助成（平成 29 年度）

報告書資料 一般 - 37

学校名・団体名	学校法人いづな学園グリーン・ヒルズ小学校
HPアドレス	http://www.iizuna-gakuen.info/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	豊かな自然体験活動を通して自律性を育む

本校は、長野市街地より 20 kmほど離れた飯綱高原の森の中に位置する全校児童 18 名の小規模校である。今年度は、地域にりんご園を借り、グリーン・ヒルズ小学校独自の自然体験・農業体験活動として『りんご園プロジェクト』を教育活動の軸に位置づけている。活動のねらいは以下の通りである。

- ・自然体験、農業体験を経験することを通して、自然に親しみ、自分を取り巻く社会とつながろうとする発見力を育む。
- ・一年間の作業のなかで、自分たちの手でりんごを育てる喜びを味わい、可能な限り子どもたち中心に活動を進め、目的に向かって、自ら考え、行動していく自律性を伸ばす。
- ・異学年で活動できるよさを生かして、自分の役割を見つけて活動に取り組んだり、お互いの考え方の違いを理解して相手に関わったりして積極的に交流する。

子ども自身が自律的に活動を進めていくために、体験したことをふり返り、学びを意味づける「ふりかえりの時間＝自己評価」を重視していく。「プロジェクト」に取り組むことを通して、近未来に必要な新たな学力（「発見力」「計画力」「ふり返る力」「伝え合う力」「合意形成力」「協働する力」「知識活用力」「情報収集力」「発信力」）の獲得を目指し、どのような授業や活動が展開されたのか、教師と子どもたちの姿から考えていきたい。また、本年度の研究から、「りんご園プロジェクト」のさらなる充実を図り、次年度の授業計画の開発に努めていく。

◇「プロジェクト」で展開されるさまざまな活動を「学びにつなげていく」教師

「桜の花を解剖し、花のつくりを確かめよう」4月18日(火) 13:35~14:30

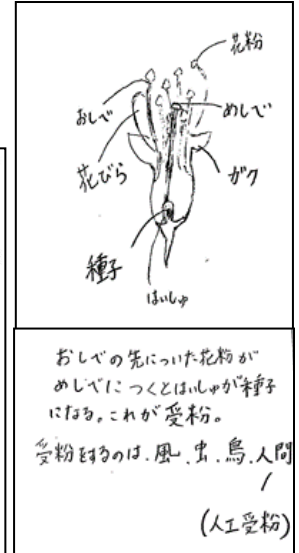
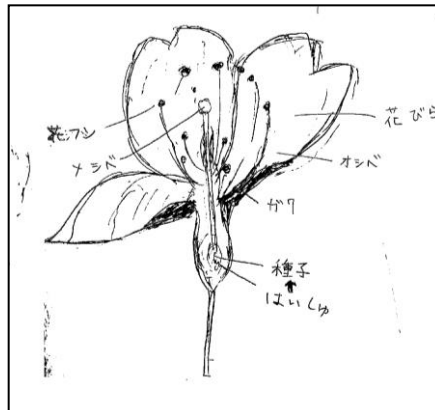
りんごの花が咲き始め、いよいよ「受粉」の作業が近づいてきたこの日、りんごと同じバラ科でりんごよりも早く花を咲かせる桜の花びらを使って、花の仕組みを観察し、受粉と結実の関係を学習する授業をした。5年理科で扱う内容も、りんご園に出かけ、りんごの花を身近に目にしている子どもたちにとっては興味津々。拡大鏡やデジタルカメラ、カッターが準備された教室に次々に集まってきた。

まず、カッターナイフを使って丁寧に花を割き、キレイな花の断面を拡大鏡で見えていく。

「これがめしべ、これがおしべ」

「めしべの先に花粉がついて、そこから実になっていくのかなあ」

授業者の説明を聞くと、一人ひとり、自分が見たもの、聞いたこと、初めてわかった受粉の仕組みを記録していく。



「プロジェクト」では学びを広げていくことが期待でき、教員はプロジェクトで展開されるさまざまな活動を「学びにつなげていく」役割を担っている。各教科の中で学ぶとされている内容も、本プロジェクトに取り組むことを通して学習することにより、より深く知りたい、確かめたいという学びへの動機を獲得できる。その結果、「知識と生活の結び付き」や「教科等の枠を超えた知の総合化」という学習指導要領が求める重要な条件を満たすことが可能になっていく。



りんごの花が満開に咲いたGW明け、学んだことを活かして小学生全員で「人工授粉」を行った。他のりんご農園から他品種の花粉を分けいただき、その花粉を「増量剤」というピンク色の粉と混ぜて色付けをし、1つひとつの花の中心に授粉していく。長い棒の先にピンク色に着色した花粉をつけ、花の中心にポンポンと優しく当てていく。1つの枝に5~6個の花が咲くが、一番中心にある花に授粉をすることで、このあとの「摘果」の作業がやりやすくなることも教えていただいた。すべてのめしべに慎重に授粉していく様子から、学習したことを生かして、りんごを大切に育てていこうと変化していく姿が見られた。

◇自分たちの活動をふり返り、自ら問題解決の方法を考え合う子どもたち

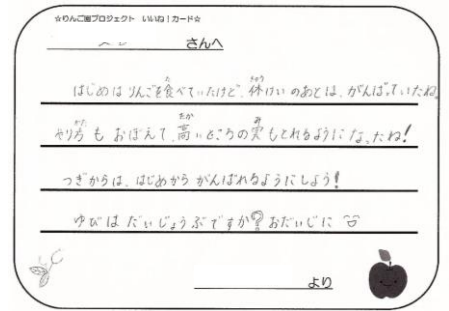
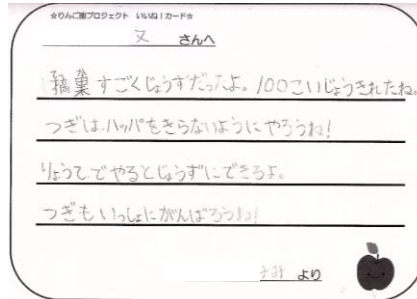
「第1回りんご会議」6月2日(金) 9:40~10:55

これまで、おいしいりんごを育てるために、「剪定」「人工授粉」「摘果」など初めての作業にも夢中になって取り組んできた子どもたち。しかし、気温が高くなり、暑い中での同じ作業が続くと、特に低学年の、子どもたちに疲れが見られるようになってきた。そこで、「りんご園での作業をもっと楽しくするにはどうしたらいいか」「私たちはどんな風にりんごを育てていきたいのか」と各クラスで話し合い、自分たちの活動をよりよくするためのアイデアを子ども自身が深く考える時間をとることにした。



小学生全員が集まった第1回りんご会議では、6年生が司会と書記を担当し、お互いのクラスで話した内容を共有し、「低学年が作業に集中できない」という問題の解決に向けて話し合いが始まった。1・2・3年生クラスの子供たちは「自分たちがどんなりんごを育てたいのか」を一人ひとりが絵に描いて発表し、4・5・6年生からはより具体的な改善策として「「りんごチーム」を結成してはどうか」という提案があった。低学年と高学年の子ども同士でペアを作り、「大きい子は小さい子にやさしくね」「小さい子は大きい子に負けずにね」を合言葉に、支え、支えられるチームを作ってみようというのである。

早速、そのアイデアを取り入れて、次の時間からチームで摘果の作業に出かけた。これまで1人でやっていた作業もチームで協力する姿が見られ、温かな声がけも聞こえてくる。作業後には、“りんごいいねカード”にその日の仲間の良かったところを書き、伝え合う活動も取り入れた。



支え、支えられる関係をお互いに意識できるようになったことは、教師の想定を超えて子どもたちが自ら問題を解決して成長を見せた、このプロジェクトの大きな成果であった。

◇「りんご園プロジェクト」の成果と課題を明らかにし、後輩たちへのアドバイスを残していく6年生「1年間取り組んできたりんご園プロジェクトの活動を表現しよう、つなげよう」

本校では、毎年3学期に1年間の活動の締めくくりとなる“学習発表会”を行っている。今までやってきたこと、その時に感じたこと、伝えたいことをそれぞれの表現方法を使って、たくさんの人たちに伝えていく機会になる。

小学6年生のEさんは、「りんご園プロジェクトの成果と課題」と題し、パワーポイントを使って以下の内容を発表した。



成果	<ul style="list-style-type: none"> *子供だけ…とまではいかないが、子供たち中心で作業ができた。 ▶学校の保護者、林さん、和田さんなどいろいろな方に協力してもらいました。 *新しく学べた事が多かった。 ▶りんごの中身、りんごの花の構造などをワークで学ぶことができました。 *「りんごチーム」を作って、仲良く集中して作業ができた。 ▶摘果作業のときに暑くて集中できない子が多く、第1回りんご会議で「りんごチーム」を作りました。「大きい子は小さい子にやさしく、小さい子は大きい子に負けないように」を合言葉に、集中して取り組みました。 *生産者の視点になって、お客さんに強み（アピールポイント）を出して伝えられた。 ▶「小学生が頑張って、ていねいに育てた」「減農薬で作った」「雨の日も、暑い日も、頑張って育てた」などなど、いろいろなアピールポイントを伝えられました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> *摘果が少し遅れてしまって、実が小さくて個数が多くなってしまった。 *1学期、暑い中の作業に飽きてしまって作業が遅れてしまった。 *雨や、りんご会議が多く、作業に行けない日がたくさんあった。 *一番初めに売ったリンゴの値段が200円で、あまり売れなかった。だから値段を安く設定したけど、もうけが出なかったり…ということがあった。

りんご園プロジェクトの立ち上げメンバーであるEさんは、これまでの活動に誇りをもち、後輩からも信頼される存在となった。「一年間の活動を自分たちで堂々と表現しよう」「新しい春につなげよう」をねらいとした3学期に、後輩たちにバトンを渡してつないでいく、持続可能なプロジェクトを作り上げようとする頼もしく成長した姿が見られた。

◆成果と課題

(1) 成果

- ・継続的に“ふりかえる”活動を通して、自己評価の力、メタ認知能力の育成につなげることができた
- ・農家の方に作業を教わったり、パティシエの方とオリジナルのお菓子を作ったりして、プロの仕事に触れ、地域の人材を活用した
- ・「りんご」という素材からテーマを多岐に広げ、教科横断的な活動を1年間通して行うことができた
- ・愛情を込めて育てたりんごや、苦勞して活動してきたプロジェクトに誇りをもつようになり、自己有用感が高まった
- ・一つのプロジェクトを小学生全員で行い、学年を越えて支え合う豊かな関係性が育まれた

(2) 課題

- ・年間指導計画の改善
- ・農作業の充実（保護者の力を借りての効率化）
- ・アドバイザー農家、近隣農家との連携の充実
- ・スタッフの研究（農業・その他体験活動・授業）
- ・資金運用を効率化する
- ・農作業用の道具・備品の購入